

溝口善兵衛氏

月刊「時評」

2008年  
9月号

# 地方への「人口分散」が必要な時代

島根県

## 政治はシナリオのない世界

大蔵省出身の知事さんは多そうですが、実は熊本の福島さん、神奈川の岡崎さんに続く三人目で、そのあと高知の尾崎さんが出てくるだけです。

知事 大学に入るとき島根から東京へ出て、大蔵省に入ってから外国に住んだりいろいろな経験をしましたが、時々、帰っていません、機会があれば郷里のために何かしたいという思いはいつも心の中にありました。これが第一の理由です。

第二に、大蔵省では国際金融などの仕事が多くて、ワシントンとボンに八年位いましたが、主計局で主査や次長をしたりして地方財政も担当しました。地方財政は、複雑な仕組みになっていて分かりにくいのですが、幸い、なじみのある世界でしたので、飛び込んでしばらくいろいろ経験すればやっていけるだろうという気持ちはありました。

第三に、郷里だとか島根にゆかりのある方々で、帰って、知事の仕事をやれる機会があればやりなさいよと勧めて下さる方が何人かおられたということです。

溝口さんといえば、大蔵省の国際畑のエキスと思われていたわけですが、その経験が活かされるのはどんなところでしょうか。

知事 行政と政治は似て非なるものです。行政はロジック中心のクールな世界ですね。特に大蔵省などはそうでしょう。他方、政治は、ある意味でパッションの世界ですね。人々が何を欲しているか、望んでいるか、そのために政治家は何をしなければいけないか、こうしたホットなやりとりの世界です。

行政の世界では、役人は、問題があると、それに対処するための政策のロジカルなフレームワークを考えて、それを行政組織の中でクリアして、最後は政治の方々の理解を得て、予算や法案にして国会に提出するという非常にロジックの世界です。それに対して政治の世界は、たとえば、最近のことでいま



すと、燃油価格が上がって漁業者が困っている、なんとかしなくては日本の漁業が立ち行かなくなる、どうするのだといった、ダイレクトでダイナミックでホットな世界です。

私に関与していた国際金融の世界というのは、例えば、日米で円・ドルレートについては、議論をする時などは全くシナリオのない世界です。自分の考えを、自分の言葉で、相手に分かりやすく伝えなくてはなりません。細かなことを言っている相手には伝わりません。政治にも似たところがあります。自分はこう考えるとか、あるいは人々の考えに対してこ

うじゃないですかと分かりやすく言うことによつて事態が動くわけで、何か決まったシナリオがはじめからあるのではないのですね。問題に応じて自分の言葉でしゃべっていかないとはいけません。シナリオ通りに進まないといったところは、国際交渉と政治の世界は似ている気がします。そういう点では、これまでの経験が少し役に立っているかなという気もします。

溝口知事は分かりやすいということを書いておられる方が非常に多いですね。

知事 ああ、そうですか。ありがとうございます。外国人と話すときなどには常にそのことを意識していました。相手にこう言うという理解してもらいやすいとか、人々は何に関心があるかなどをよく考えて、分かるように話さなければならぬと職員に常にかけていましたし、知事になってからもそうです。

## 発展の遅れを強みに

——これからの地方の位置づけについて歴

史的文脈の中でどうお考えでしょうか。

知事 今、少子高齢化が日本全体の大きな問題です。この問題に対処するには、大都市から地方への「人口分散」が必要だと考えています。大都市は合計特殊出生率が下がっています。東京は、一・〇人になっていますが、ゆつたりして子育てのしやすい地方の方が高いのです。島根あたりは一・五人くらいですね。若者が集中する大都市では子育てがしにくいので出生率が低いのです。大都市をさらに発展させても、日本全体の少子高齢化問題は解決しないのです。これを直すためには、人口を地方に「分散」させる政策を採らなければなりません。これは、島根だけではできません。国の政策として必要です。

例えば、家康が江戸に幕府を開く前は、今の東京の中心部はみんな海でした。東京が発展したのは、将軍が大名たちに江戸城の周りを埋め立てたり、堀をつくったり、普請（公共工事）させたからなのです。何も東京の人がよく働いたからとか、東京の人に特別な才能があるから発展したというわけではありません。

ん。東京の一極集中は明治以降、そして戦後も国の政策で進んだのです。つまり、長い目でみると、国の政策がそれぞれの地域の発展に大きな意味を持ち、影響を及ぼしてきているのです。

島根を振り返ってみると、発展が遅れたためにかえってそれが強みになっていきますね。豊かな自然が残っていること、古き良き歴史・文化が残っていること、豊かな人間関係と温かい地域社会があること、この三つです。日本の社会も成熟化し、今や人々はこうした大都市では失われてしまったものを求めています。これらを活用することによって島根らしい発展が期待できると思っています。

島根は、まだまだ道路の整備は遅れていますが、それでもだいぶ改善して、交通の不便さがクリティカルな障害にはならなくなり、中山間地でも工場が出来るようになってきています。隠岐の西ノ島町では、漁船団で二〇〇人くらいの人が働いていますが、うち三〇人くらいはイターンで、県外から来た人たちです。若いときには湘南などでヨットや波乗

りなどしていた海の好きな人が、隠岐に来て漁業をやりながら生活をしているといった例もあります。農業でも、いろいろトライする人たちが都市から来ています。林業では木材価格が少し上がってきて、長い目で見ると島根の木材は復活の可能性が出てきていますし、工業面では、九州の自動車産業の発注なども島根に来るようになってきています。

IT・ソフト系では、今、日本発のプログラミング言語として世界から注目されている「ルビー」を開発した「まつもとゆきひろさん」という人が松江に住んでいますし、我々も「ルビー」を使いこなせる人材を育てたり、「ルビー」を使ったプログラムを発注するなどの支援をしています。また、起業者に対して雇用や家賃を助成しています。クライアントの多くは大都市にいますから、飛行機代なども助成しています。米国のサンノゼみたいにプログラマーのコミュニティが松江に出来ないかと、県と松江市が一体となって取り組んでいます。

——中山間地域の将来はどうですか。

知事 今の過疎法の期限が二十一年度末に來ます。これを継続する必要がありますが、新法では、かつてのように過疎で貧しいから助けて下さいという発想ではなく、都市と地方は相互に依存しているのだから助け合いましょうという考え方で進めるべきだというのが、私の考えです。CO<sub>2</sub>吸収では森林が大きな役割を果たしています。きれいな水も供給し、安全、安心な食料なども多くは中山間地域で作られているのです。大都市の人々は、これらの便益を受けています。

他方、集落の維持が大きな課題となっています。昔の村や小学校区よりも小さな単位では維持が難しくなってきましたので、それを束ねるようなことをすれば良いと思います。が、かといって、家の前には田んぼもあるし、住みやすい所からわざわざ離れる必要はない訳ですね。集落営農といった手法もありますし、農業法人ができて、若い人が近隣の都市に住み、中山間地にある農地に仕事に来るといったやり方も考えられます。

また、県外の大都市に出た息子や娘たちが

帰って来ないということが問題ですが、都市では団塊世代が退職して職を見つけないのが難しい時代ですから、退職後は戻ってきたいと思っている人たちも大勢います。そうコストをかけずに集落はまだ維持できるのではないかと思います。

## 経済、行政の全国分散を

——都道府県制、道州制、市町村合併についてはいかがでしょうか。

知事 島根県では、合併で市町村数が五九から二一になったので、これ以上進めるのはなかなか難しいと思います。また、道州制は議論がまだ充分に出来ていません。住民に近いところで行政サービスをといった形式的な議論に止まっています。

日本は、山や川で分断される地形のために、地域的な格差は欧米よりも大きいですね。そのため、政府が国全体を見渡して格差を縮小する政策を採って行く必要があったのですが、そこを無視して単に欧米のような道州制とい

うようなことを言ってもうまくいくのかなという感じがします。

分権もさることながらもっと人口などの「分散」に力を入れて行くべきです。後発国が先進国に追いつく過程では中央集権的な発展が効率的ですが、日本はもう欧米に追いつき、成熟した社会になっています。日本がキャッチアップする過程で、大都市部に集中させてきた経済や行政を、これからは、全国に分散することが求められています。地方大

ければなりません。

日本全体のバランスの取れた発展のために、地方を重視した政策を採ることが必要な時期になっているのではないかとというのが私の考えです。

(解説) 島根県では、竹下、桜内、細田、青木といった中央の有力政治家の地元だけに、知事のポストも彼らの力関係で振り回されてきたところがあった。

だが、澄田前知事、溝口現知事と安定した基盤を持った知事の時代となり、じつくりと地域経営に取り組める環境が出来た。

これまで末端のインフラは立派でも、基幹インフラの整備が遅れていた島根県だが、ようやく高速道路なども格好がついてきた昨今、やはり、日本海側の発展のためには、溝口知事のいうように自由競争だけでなく国策としてこれらの地域を浮揚させる気がなくてはとうにもならないところがある。

幹道路のネットワークは、社会保障や教育と同じような基礎的インフラであり、どこにいても一定のサービスは受けられるようにしな

その意味でも「分権」だけでなく「分散」という知事の主張はもっと声を大にしていつてもらいたいものだ。